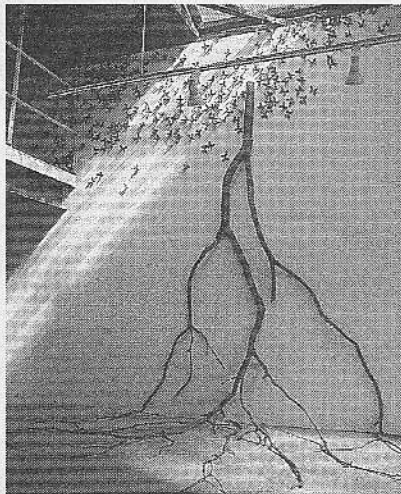


白い壁から垂れ下がる朽木。その天地が逆転した構図も、枝がコンクリートの床を這い回る様子も、まるで別の世界に踏み込んだような印象を与える。見上げると、天井の窓越しに長く日が差し込んでおり、光源を指して無数の蝶が群がっている。よく見ると、朽木も蝶も作り物であることが分かるのだが、その不条理な光景の美しさに思わず息をのんだ。

大西伸明の作品は、実際の物を型取りして作られた複製物である。これまでは、着色しない透明な部分を残すことによって、本物と複製の間の曖昧な境界を示そうとしてきた。しかし今回発表された新作では、すべての部分に綿密な彩色を施

大西伸明展 不条理な光景の美しさ



「kuchiki」「choucho (monki ageha)」の展示風景

しながらも、意図的に物としての一部を欠くことによって、表面だけの存在であることを強調している。そこには、物質的な薄さと視覚的な強度という、作家が目指すコンセプトの深化がうかがわれる。

さらに今回は、個々の作品をどう見せるかという点においても高い意識が感じられた。複製であることは

すでに自明のこととして、それを創りえない光景を演出している。作り物でしか味わえない感動もあるのだ。(2月10日―3月10日、大阪市城東区のノマル・プロジェクトスペース キューブ&ロフト)

今月の「キヤノン」から

西宮市大谷記念
美術館学芸員

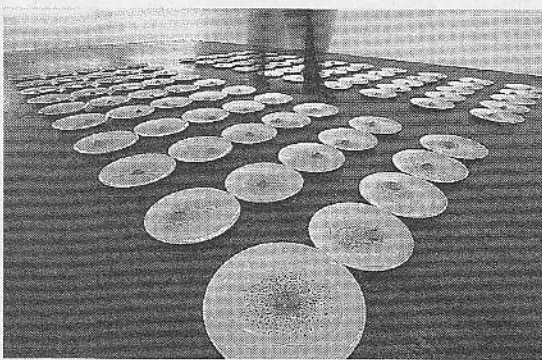
池上 司

物の形を模すとは言っても、その背景にある意図は様々だ。模倣自体に積極的な意味を見い出す場合もあれば、表現のプロセスとして模倣する場合もある。田辺由美子は、後者である。会場の床に整然と並べられていたのは、皿に入られた百個の生卵、らしきものである。黄身の上には賞味期限の印字のように二〇〇一から二〇〇〇までの数字が打たれ、周囲の白身にはそれぞれ一年分の日付が埋め込まれている。

百年分の時間を視覚化するというコンセプト自体は説明するまでもなく明確で

田辺由美子展 100年分の時間を視覚化

あるが、何より驚いたのは、やした時間を表現する手段その卵の、本物と見まがうともなっている。声高に主張するのはなく、日々の暮らしの再現性の高さである。黄身の大きさや色の濃さを、白身の盛り上がりや広がり方に至るまで、一つ一つの細部が異なっている。これは、すべて手作業によ



「a day～日々～(2001-2100)」の展示風景(撮影・高嶋清俊)

って成形しているからだという。

この作品における卵は、日を刻む象徴的なモチーフとして用いられていると同時に、その透明感や鮮度を物理的に表現することが、作家の仕事量、制作に費

18日、神戸市灘区の夢創館)

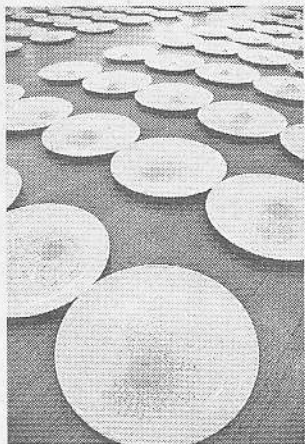
2007年(平成19年)3月14日 水曜日

新 聞 新 戸 申

田辺由美子展

床に白い皿がずらり百枚。それぞれに本物そっくりの生卵の造形物が載る。一見、童話的なようでSF的、悪夢的にも見える異様な空間。神戸出身の美術家・田辺由美子の個展「浮遊する価値」の光景だ。

百の皿、百の目玉のような黄身、



生卵を模した造形物の1皿ずつに1000分の1の目付を張り付けた作品「aida y~日々」(2003年) 神戸市灘区、ギャラリー夢創館

SCENE

透明な白身。さらに卵には、黒い異物が点々と渦巻き、流れ、拡散し、不思議な形を描く。近寄ると、その「黒」は微細な洋数字の群れと分かる。

黄身には、卵の製造番号のよう「2001」から「2100」までのナンバー。白身には、それぞれ、一年分のカレンダーの日付を示す数字の列。つまり、この百の卵には、二〇〇一年以降の「百年分の時間」が封じ込められている。

ほかにも、アブラゼミの抜け殻を、透明樹脂で固めた卵形の小品、無数のタンポポの綿毛を壁面に植え付けた作品を展示。いずれも職人技ともいえるべき、忍耐強い作業や丹念な作品仕上げが見事だが、その磨き上げられた美は、奇妙な不安感を抱かせもする。

それは「生命」と「時間」への言い知れない不安だろうか。モチーフの卵はもちろん生命の「原

卵モチーフに不安表現?

形。ゼミの抜け殻は「生命の抜け殻」でもある。相反する生と死が、透明な樹脂によって、ともに静止した時間の中に封印されている。それは生を欲しつつ、死にもあこがれるような、奇妙な作家の無意識から出たのだろうか。

一方、多用される「数字」は無論、時間のシンボルだが、その数字の列は、必ずしも秩序だつてはいない。「不規則な時間軸」。それは自由さも意味するが、混乱にも通じる。また、無数の数値に、DNAなど、データ化された生命工学の情報の断片を連想する人もいるだろう。病んだ地球環境、行き過ぎた科学技術への漠然とした不安や不信が、ここには投影されていないだろうか。

同展は、神戸市灘区青谷のギャラリー夢創館で十八日まで。 ☎ 078・802・8822

(堀)